

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873300735		
法人名	有限会社あおいとり		
事業所名	グループホームあおいとりB棟	ユニット名(2)
所在地	茨城県那珂市飯田2388-5		
自己評価作成日	令和 3年 9月24日	評価結果市町村受理日	令和 3年 12月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=0873300735-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和3年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様一人ひとりの能力に応じた役割を担っていただき、無理なく、刺激を感じながら活気ある生活をしていただけるよう支援をしています。
 ・四季を感じられる「食事」や「イベント」を多くとり入れ、季節の会話を楽しんでいただけるよう支援をしています。
 ・食事には、利用者様の好みや食べたい物を取り入れ、バランスの良い家庭料理を提供しています。
 ・園周辺の散歩や、ラジオ体操など、適度な運動ができるよう支援をしています。
 ・家庭的な雰囲気の中、利用者様とコミュニケーションを多くとることで、居心地良く、安心して生活できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から少し入った住宅地に位置しているが、周辺には林などもあり四季を感じながら生活し散歩も楽しめる。管理者と職員は利用者の思いや意見を尊重し押しつけない個別ケアを実施し、利用者が我が家と感じられ自分も入りたいと思えるような事業所を目指している。職員の考える献立に基づき地域の食材を利用し、毎月実施の誕生日会にはお赤飯などお祭りのような料理が並び、日々の食事は勿論の事、季節毎の行事に合わせた食事は器にもこだわり利用者はもとより職員の楽しみとなっている。利用者と一緒にたこ焼きやホットケーキ等おやつ作りも重要と考え頻繁に実施している。看護師が職員として在籍している為、利用者の健康管理面でも家族等にとって安心な事業所といえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で、事業所の理念を皆で唱和し、共有して、利用者に寄り添った支援につなげている。	寄り添って生きる「ここが私の家」と思える環境を整え、「自分も入りたい」と思えるホームを作るという基本理念の元で、ユニット間の廊下に掲示し朝礼で唱和している。	利用者が地域とどのように関わっていくかを踏まえた理念の見直しを提案する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症予防のため、地域交流が難しいが、利用者と散歩しているときに、近隣の方と挨拶を交わすことはできている。また、近隣の方が、野菜のおすそ分けをしてくださっている。	オセロや傾聴ボランティアの受入れがある。地域の夏祭りや小学校の運動会には利用者も見学に行ったり参加して楽しんでいる。近隣の住民から野菜の差し入れがあるなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、職場体験やボランティアの方を通じて、認知症に関する情報を伝えているが、コロナ感染症予防のため、できていない。利用者様のホームでの暮らしの様子を写真に残し、玄関に飾ったり、ホームページなどで紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、自治会長、民生委員、地域包括支援センター、市役所、利用者家族に、サービス状況を報告・意見交換し、地域の情報をいただいたりして、サービス向上に活かしている。	現在も別棟の会議室で開催している。毎回身体拘束適正化委員会の状況を報告している。コロナ禍の為家族等の面会ができていなかったのでもリモート面会を実施してはとの意見があり、希望する家族等は実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と電話や面談を通して、連絡をよくとり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	要介護保険更新申請時に訪問し、入居状況を伝えたり、相談したりして情報交換している。コロナ感染症全般やワクチンに関する情報などの連絡がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束についての弊害が大きいことを理解し、利用者一人ひとりをよく観察し、身体拘束をしない姿勢でケアに取り組んでいる。職員は、身体拘束に関して、年2回職員勉強会で学んでいる。	管理者は常日頃より職員の教育に心掛け、小さなことでもその場で指導している。身体拘束適正化委員会は2ヶ月に1回開催している。「養介護従事者による高齢者虐待の防止・早期発見のための指針」を掲示している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、勉強会等で学んでいる。虐待は、権利侵害に当たるので、日頃から、職員が不適切なケアをしていないか、職員同士で気を付け、虐待防止につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域や施設内の勉強会で、成年後見人制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解除・改定に関して、本人や家族の意向を尊重し、十分な話し合いの元、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が来園された時や電話などで話を聞くようにし、意見や要望があったときは、その都度話し合い、運営に反映させている。	面会時には、職員が家族等に、日々の状況を報告するなど、話しやすい環境作りに努めているとともに、アンケートを実施し、結果をまとめているが家族等に知らせる迄には至っていない。	アンケートの実施に当たっては結果を家族等に知らせ、次に繋げることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員の意見要望などを聞き、その都度対応している。	社長に直接意見を出す意見箱があり、社長が必要に応じて管理者に連絡し検討する仕組みとなっている。職員会議は意見を出し易いように、毎回司会者と書記を当番制にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員と個別面談を行い、悩みや要望を聞いたうえで、経験や資格の相談等、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量に見合った外部研修への計画をたて、職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などで、同業者と交流し、学んだことをサービスの向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人が少しでも安心していただけるように、困っていること・不安なこと・要望を理解し、共に考えていく姿勢で対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と利用者本人の思いを把握し、本人にとってどのような支援が大切なのか考え対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談などの中で、必要としている支援を見極め、様々なサービス利用も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する・される関係ではなく、暮らしを共にする者同士の関係性を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染症予防のため、面会ができない状況にあり、オンラインにてお互いのきずなを大切に、ともに本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた場所など、思い出が途切れないよう、写真や映像、物などを通して話を聞いたりして支援に努めている。	思い出の写真や映像を通して話を聞き、フェイスシートで共有している。知人との関係が継続するように手紙のやり取りや電話の利用を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性などを把握し、席の配置を工夫したり、職員が間に入り、一緒にレクレーションなどをして関わり合い、支えあえるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほかの施設に移動したり等、退所後もお見舞いに行ったり、関係を大事にしている。元利用者の家族から、施設で使う布の提供などの支援がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思い・希望・意向を把握しながら、支援している。意思の表出が困難な場合は、家族様に意見をいただき、本人の立場から考えている。	日々のかかわりの中から利用者の思いを把握し、思いに寄り添えるようにしている。家族等からの意見も参考にしている。無理強いをしない支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、前の入所(入院)先の職員、サマリーなどから、生活歴・サービス利用経過など、情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方・生活リズムを、関わりながら理解していき、職員同士で話し合い、共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のかかわりの中から利用者の思いを把握している職員からアンケート・聞き取りという形で情報収集し、介護計画を作成している。	定例の職員会議、ケース会議を行い、利用者の思いなどをケアプランに反映している。毎月モニタリングを行い、基本3年で見直しを行っているが利用者の状況に変化が生じた場合には随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの様子は、ケース記録に記録している。気づき、工夫、発言など詳細に記録している。職員間の申し送りも、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ感染症予防のため、面会制限～中止していたが、その中でも、利用者や家族の関係性が保てるように、オンライン面会や感染予防しながらの面会スペースの設置などを行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の利用したい地域資源(オレンジカフェ、買い物、外食など)を把握しているが、感染症予防のため、利用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人一人かかりつけ医がおり、緊急時の対応も適切にされている。	協力医療機関の医師による訪問診療が月2回、かかりつけ医への受診は月1～2回行っている。看護師が職員として在籍している。医師には現状を書類で渡し、その用紙に医師からの返信用記載欄を設けてある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化など、心配なことは、その都度看護師に相談し、対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して入院治療できるよう、入院時情報提供をしている。退院前に、情報を聞き取りし、退院後の生活、治療がうまくいくようにつとめている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人・家族様の意向を書面で確認している。終末期、体調の変化があった時、話し合いの場を設けている。	重度化や看取り介護に関する指針があり、入居時に看取りに関する確認書を得て、看取りに入る時に同意書を得るようにしている。看護師による内部研修を行っている。看取り期になった場合には職員間で再確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に、応急手当や初期対応の仕方を勉強会などで話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、夜間想定訓練も行っている	夜間想定を含む避難訓練を年2回行っている。訓練後は反省会を行い課題について話し合っている。災害に備えた備蓄品を保管しているが一覧表を作成して管理するまでには至っていない。	懐中電灯など、用具や用品及び食料の保存品については数量、賞味期限など一覧表を作成し管理することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の利用者に聞かれないことは、居室で話を聞いている。更衣時、プライバシーを守っている。	個人情報や肖像権に関する同意書がある。個人情報に関する書類は適切に管理している。人権尊重や守秘義務についての研修を年1回行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうしますか？」という問いかけなどをして、小さなことでも自己決定できるよう支援したり、希望の表出ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意見を尊重し、一人一人のペースに合った1日を過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が気持ちよく、おしゃれを楽しめるよう、好みの服に着替えができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の「〇〇が食べたいな」に、できる範囲で答えている。フキ・里芋などの皮むきなど手伝ってもらっている。手つくりの食事は、おいしいと好評。	職員が献立を作成し、地元で食材を買い出しに行っている。同法人障害者就労支援事業所の畑で収穫した野菜や近隣住民が届けてくれた野菜を使用している。利用者の食べたいものに対応し、一緒におやつ作りなどを行っている。食事の際の器にもこだわっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は記録をつけ、必用時栄養補助剤を利用している。食形態も一人一人の咀嚼・嚥下状態・本人の希望に合わせて変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、マンツーマンでの口腔ケアをすることで、口腔状態観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分排泄チェック表にて、排泄パターンを確認し、声掛け・トイレ誘導するなど、トイレでの排泄を促している。	できるだけトイレで排泄できるよう夜間も含めて誘導し支援している。乳酸菌飲料やヨーグルトなどを提供し、便秘にならないような工夫をしている。退院後も排泄支援でオムツからリハビリパンツ、布パンツになるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヤクルト、夕食時にヨーグルト提供し、便秘予防に取り組んでいる。また、散歩やラジオ体操など体を動かし、便秘予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにしている利用者が多いため、利用者の希望を聞きながら、最低でも3日に1回入浴できるよう支援している。	入浴は基本週3回利用者の希望に沿っていつでも入れるよう支援している。季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯を提供している。同性介助を希望する利用者には対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や状況に応じて声掛けをし、気持ちよく眠れるよう、環境や室温調整している。また、眠れない利用者には、話を聞いたり、見守りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人飲んでる薬の種類や副作用について、まとめたファイルがあり、職員が確認している。変更があった時は、連絡帳に記載、情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月レクリエーション担当の職員が決められている。毎週日曜日にはカラオケの時間があり、利用者に大好評である。一人一人が楽しく過ごせるよう、日々支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症予防のため、思うように外出できていない。散歩に行ったり、園庭でお茶をしたり、ドライブしたり、気分転換できるよう支援している。	天気の良い日は散歩に出かけて、近隣住民と挨拶を交わすなど交流している。利用者の希望に沿った買い物にも出かけている。年間行事計画を立てて、季節に応じて花見などのほか道の駅や植物園などに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染症予防のため、本人の希望を聞いて、職員が代わりに買いに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙は、本人に渡している。家族・知人から電話があった時は、本人に代わってやり取りしていただいている。電話がしたいという利用者は、電話をかけて話せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾や植物、イベント時の写真などを飾り、季節が感じられるような空間づくりをしている。園庭にイスとテーブルを置き、外でもくつろげる環境を整えている。	居間兼食堂にはピアノや大きな家具調の食器棚、柵に囲まれただるまストーブが置かれ、家庭的な雰囲気がある。至る所にソファが設置され、天窓から射す光の中で寛げる場所となっている。庭の椅子とテーブルを利用して日光浴ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にソファを置き、好きなところに座ったりできる。A棟B棟行き来したり、自由に移動できる。本棚を設置しており、自由に利用できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れたものや、家族写真、本人が書いた絵などを飾り、居心地よく過ごせるようにしている。	居室にはエアコンやベッド、カーテン等が備え付けられている。管理者は使い慣れた物品を持参してもらえよう説明し、テレビは部屋に閉じこもらない対策として持ち込まないように話している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりがあったり、段差のない床など、安全に移動できるよう工夫がされている。利用者居室前に飾りをつけ、目印にしている。トイレの場所がわかるように、表示つけている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームあおいとり

作成日 令和 3年 12月 16日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念はできているが、利用者が地域とどう関わっていくかを踏まえた理念を作成できるように検討する	利用者が地域とどう関わっていくかを踏まえた理念を作成する	勉強会等で職員の意見も取り入れながら作成する	6ヶ月
2	10	アンケートを実施し、結果をまとめて家族へ郵送していたが、日付が抜けていたため、郵送したかどうかの判断ができなかった	郵送した事が分かる様に書類を整備する	誰が見ても分かるような書類を作成する	3ヶ月
3	35	災害に備えた備蓄品を保管しているが、一覧表を作成して管理するまでには至っていない	災害に備えた備蓄品の一覧表の作成	懐中電灯など、用具や用品及び食料の保存品については、数量、賞味期限などを記入し、全職員が分かるよう掲示し管理する	1ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。